

犬は「しつけ」でバカになる [著]堀明[評者]小林莉子

[掲載]週刊朝日2011年5月20日号

出版社：光文社 価格：¥ 777

近年咬みつきやムダ吠えなど、問題犬が増えてきている。その背景には、流行犬種を多産するための過度な繁殖や、生後八週未満の幼犬を売買する今のブリーダー、“パピーミル(子犬繁殖工場)”の存在がある。人里離れたところにあるので住民の目に触れにくいのが、犬が餓死している例もあるほど、環境はよくない。売買目的で生後間もないうちに母犬と引き離された子犬はコミュニケーション能力が低く、問題犬になりやすい。

また著名なトレーニングマニュアルの矛盾を指摘。「模倣能力がない」などという定義を否定する。ヨーロッパの研究によって観察で学ぶ犬の能力が科学的に証明されたことや、犬の脳機能の特徴として嗅球の占める割合が人の40倍ほどあることをあげ、犬の思考プロセスは独自に発達していると述べる。

半放し飼い状態の犬127匹と寝食を共にした動物学研究家によるただしい犬の生態書。